

安全データシート (SDS)

1. 物質または混合物及び会社情報

製品名 : **デービーボンド DB 1860**

製品の名称 : ニトリルゴム系溶剤形接着剤
製造会社名 : ダイアボンド工業株式会社
住所 : 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 4085
担当部門 : 品質管理課
電話番号 : 046-285-0985
Fax 番号 : 046-286-4292
メールアドレス : dbtec@dbbond.co.jp
緊急連絡先 : 046-285-0985 (担当部門に同じ)
推奨用途及び使用上の制限 : 接着用途に限る

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 : 引火性
GHS分類
物理化学的危険性 : 引火性液体 区分2
健康に対する有害性
急性毒性 (経口) 区分5
急性毒性 (経皮) 区分外
急性毒性 (吸入: ガス) 分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気) 区分外
急性毒性 (吸入: 粉塵・ミスト) 分類対象外
皮膚腐食性/刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2 B
呼吸器感作性 分類対象外
皮膚感作性 区分外
生殖細胞変異原性 区分外
発がん性 区分外
生殖毒性 区分1 A
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露) 区分1. 区分2. 区分3
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露) 区分1
吸引性呼吸器有害性 分類対象外
環境に対する有害性
水生環境有害性 (短期間) 区分3
水生環境有害性 (長期間) 区分外
オゾン層への有害性 分類対象外

※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報	引火性の高い液体および蒸気 皮膚刺激 眼への刺激 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 臓器の障害（中枢神経系） 臓器の障害のおそれ（腎臓） 呼吸器への刺激のおそれ、眠気およびめまいのおそれ 長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害（肝臓、腎臓、中枢神経系、末梢神経系） 水生生物に有害
---------	---

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱い説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまでは取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火、及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースを取ること
防爆型の電気器具／換気装置／照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用する事
静電気放電に対する措置を講ずること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
取扱後は手を良く洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業着は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[救急処置]

火災の場合：消火するために、粉末消火剤、耐アルコール性泡消火器または二酸化炭素を使用すること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。むりに吐かせないこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用して容易に外せる場合は外すこと。直ちに医師に連絡をすること。
皮膚に付着した場合：皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は医師の手当を受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断・手当を受けること。
気分が悪い時は、医師の診断・手当を受けること。
漏出物を回収すること。

[保管]

換気の良い場所で保管すること。容器を密栓しておくこと。

[廃棄]

内容物や容器を、地方自治体の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名又は一般名：ニトリルゴム系溶剤形接着剤

主成分：ニトリルゴム等

成分及び含有量

化学名又は一般名	CAS No.	PRTR 法				労働安全衛生法		含有率 (%)
		特定一種	一種	二種	非該当	該当	非該当	
ニトリルゴム	社外秘				○		○	10～30
合成樹脂	社外秘				○		○	10～30
無機フィラー	社外秘				○		○	0～20
メチルエチルケトン	78-93-3				○	○		60～70
トルエン	108-88-3		○			○		7.0
合計								100%

危険有害性の不純物

化学名又は一般名	CAS No	含有率
ホルムアルデヒド	50-00-0	110ppm 以下

4.応急処置

- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。むりに吐かせないこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合は外すこと。直ちに医師に連絡をすること。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。皮膚刺激が生じた場合は医師の手当を受けること。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。

5.火災時の措置

- 消火剤 : 粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤 : 水
- 特定の消火方法 : 付近の着火源を絶ち、保護具を着用して風上から消火する。
- 消火を行なう者の保護 : 保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、呼吸保護具、保護眼鏡等の保護具を着用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出物は直接皮膚に触れないようにする。また、漏出物の蒸気は吸わない。必ず保護具を着用すること。
- 環境に対する注意事項 : 現在のところ知見無し。
- 除去方法 : 風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。消火用器材を準備する。作業の際には、必ず保護具を着用し風上から行なう。少量の場合は、おがくず、ウエス、砂等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。多量の場合は、土砂、土のうなどで流出を防止した上で、空容器に回収する。回収には、火花を発生しない安全シャベルなどを使用すること。廃棄物などは関係法規に基づいて処理すること。流出その他事故が発生した場合は、警察署、消防署等の関連機関に連絡する。

7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 火気厳禁。
炎、火花、高温体との接近、その他点火源となる恐れのある機械等の使用厳

禁。また、静電気対策として、液体の輸送、汲み取り、攪拌等の装置は必ずアースを取ること。

取扱いは換気の良い場所で行い、状況によっては保護眼鏡、保護マスクを使用する。容器はその都度密栓すること。

注意事項： 局所排気装置等、排気の為の装置を設置する。

安全取扱い注意事項： 消防法の危険物第一類（酸化性固体）及び危険物第六類（酸化性液体）とは、混合接触させてはならない。

保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、容器を密閉し5℃～35℃で保管する。
着火源、高温物を近づけない。

安全な容器包装材料： 弊社より出荷した包装容器を使用すること。

その他、電気機器は防爆構造にする他、消防法、労働安全衛生法等の法令の定めるところに従う。

8. 暴露防止及び人に対する保護措置

設備対策： 局所排気装置等、排気の為の装置を設置し、蒸気が滞留しないようにする。
取扱い場所で使用する電気機器は、防爆構造とし機器類はすべてアースを取る。
取扱い場所の近くに緊急用の洗眼設備及びシャワーを設ける。

化学名又は一般名	トルエン	メチルエチルケトン
管理濃度	20ppm	200ppm
許容濃度 日本産業衛生学会 (2012年度版)	50ppm 188mg/m ³	200ppm 590mg/m ³
ACGIH (TLV) (2012年度版) STEEL	20ppm 知見無し	100ppm 150ppm

保護具

呼吸保護具： 有機ガス用防毒マスクを着用する。

保護眼鏡： 保護眼鏡を着用する。

保護手袋： ゴム製等の不浸透性保護手袋を着用する。

保護衣： 長袖作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状： 液体（20℃中）

色： 茶褐色

臭い： 特徴的な臭気がある（20℃中）

pH： 測定できない

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲

沸点： 79℃以上

引火点： -7℃（計算値）

発火点： 480℃以上

爆発特性

爆発限界： 上限：11.5% 下限：1.2%

蒸気圧： 9.6×10³ Pa（20℃）

蒸気密度： 空気より大

溶解性

溶媒に対する溶解性： 水に不溶

比重： 0.8～1.0（20℃）

オクタノール／水分配係数：データ無し

10.安定性及び反応性

安定性：通常の取扱いにおいては安定。
 危険有害反応可能性：火気により引火、爆発の危険有り。
 避けるべき条件：知見無し
 混触危険物質：知見無し
 危険有害な分解生成物：窒素酸化物（焼却時）

11.有害性情報

	ホルマリン	メチルエチルケトン	トルエン
急性毒性 _{ラット経口} (LD50)	605 mg/kg	2483 mg/kg	4800 mg/kg
急性毒性 (経口)	区分 4	区分 5	区分 5
急性毒性 (経皮)	区分 3	区分外	区分外
急性毒性 (吸入:ガス)	区分 2	分類対象外	分類対象外
急性毒性 (吸入:蒸気)	分類できない	区分 5	区分 4
急性毒性 (吸入:粉塵:ミスト)	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 2	区分 2	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	区分 2B	区分 2B
呼吸器感受性	区分 1	分類できない	分類できない
皮膚感受性	区分 1	分類できない	区分外
生殖細胞変異原性	区分 2	区分外	区分外
発がん性	区分 1A	区分外	区分外
生殖毒性	分類できない	区分外	区分 1A
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 1(神経系) 区分 1(呼吸器)	区分 1(中枢神経系) 区分 2(腎臓)	区分 1(中枢神経系) 区分 3(気道刺激、麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分 1(呼吸器) 区分 1(中枢神経系)	分類できない	区分 1(中枢神経系) 区分 1(腎臓、肝臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない	区分 1	区分 1

12.環境影響情報

生体毒性：混合物としての知見無し
 残留性・分解性：混合物としての知見無し
 生体蓄積性：混合物としての知見無し
 土壌中の移動性：混合物としての知見無し

13.廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄物処理に関する法律分類では、引火性廃油と廃プラスチック類の混合物である。
 産業廃棄物として許可の受けた専門業者に委託する。
 焼却時に有害ガスの発生を伴うので、焼却設備には排ガス処理設備が必要である。
 汚染容器・包装：産業廃棄物として許可を受けた専門業者に委託する。
 その他、廃棄物の処理及び清掃に関する法規制の定めるところに従う。

14.輸送上の注意

容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。火気厳禁。その他、消防法、船舶安全法等の法令の定めるところに従う。

国連番号：UN 1133
 国連品名：接着剤
 輸送における危険物有害性クラス：クラス 3（引火性液体類）
 容器等級：II

緊急時応急処置指針番号 : 1 2 8

15.適用法令（化学製品に特に適用される法規制）

労働安全衛生法 : 引火性のもの・通知対象化学物質 トルエン、メチルエチルケトン
有機溶剤中毒予防規則 : 第二種有機溶剤
PRTR 法 : 通知対象化学物質 トルエン
消防法 : 危険物第四類第一石油類（非水溶性液体）（危険等級Ⅱ）
船舶安全法 : 引火性液体（引火点 23℃未満）
その他、地域の法規制の定めるところに従う。

16.その他の情報

参考資料 : 国際化学物質安全性カード（ICSC）
有機溶剤作業主任者テキスト
安全データシート作成指針（日本化学工業協会）
接着剤の安全データシート作成手引き（日本接着剤工業会）
溶剤ポケットブック（オーム社）
JIS Z 7250（日本規格協会）
原材料メーカーの安全データシート

危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取扱いには充分注意して下さい。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の実用を目的としたもので、特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。

特定の化学物質不使用情報シート

会社名 ダイアボンド工業株式会社
住 所 神奈川県愛甲郡愛川町中津 4085
担当部門 厚木工場 品質管理課
電話番号 046-285-0985 FAX 番号 046-286-4292
[管理番号] 作 成 2008 年 05 月 07 日

[製品名] デービーボンド DB 1860

[本シートの使用法]

弊社では平素より製品の物質管理及び情報収集に努めております。また情報は国内法の規定に従い SDS に記載して、お客様にお届けして参りました。しかし海外法等の規定から、特定の化学物質の詳細な含有情報をご要求頂く事が増えております。本シートはこのようなご要求にお答えして、SDS を補完する目的で作成しました。

[製品中の特定の化学物質含有調査]

主要海外法規の規制物質を中心に調査いたしました。

物質群名	使用の有無	分析値
カドミウム及びその化合物	無	
六価クロム化合物	無	
鉛及びその化合物	無	
水銀及びその化合物	無	
TBT類、TPT類	無	
TBTO	無	
塩化パラフィン(短鎖)	無	
PBB類	無	
PBDE類	無	
PCB類	無	
ポリ塩化ナフタレン(塩素数が3以上)	無	
アスベスト類	無	
特定アゾ化合物	無	
オゾン層破壊物質	無	
放射性物質	無	
ホルマリン	有	

* 意図的に添加したことでの使用の有無を記載しました。

* 分析をおこなっている物については分析値として記載しています。

[その他] 以下の国内法上管理要求されている物質の含有量は安全データシート(SDS)を参照下さい。

◎化管法 ◎安衛法(通知対象物質) ◎毒劇法(毒劇物)

本製品は下記国内法で製造・輸入を禁止されている物質を意図的に添加しておりません。

◎ 化審法(第1種特定化学物質) ◎安衛法(製造禁止物質) ◎毒劇法(特定毒物)